

審査員特別賞

「 異国 」

経済学科 3年 Kolee (ペンネーム)

留学は多くの人にとって夢の一つですが、私はその中の一人ではありませんでした。しかし、異国の地で学び、文化を体験することは、なんとも刺激的な経験でした。私はアメリカの大学で、さまざまな人々と出会い、多くの経験をしました。

最初の頃は、言葉の壁や文化の違いに戸惑うことが多かったです。もちろん、授業はすべて英語で行われ、初めは講義についていくのが難しく、無断で授業を録音することもありました。今となっては、良い思い出です。そして、少しずつ慣れてくると、クラスメートとのディスカッションなどが苦ではなくなり、英語力も向上していきました。特に、異なるバックグラウンドを持つ学生との意見交換は、未知の生物と遭遇したような新鮮な感覚を味わわせてくれました。

また、留学生活では地元の人々との交流も大切な体験の一つでした。大学のイベントやボランティア活動に参加することで、自己肯定感を高めながら、さまざまな人々と交流することができました。特に心に残ったイベントは、各国の文化を披露するカルチャーショーです。百人はいたであろう観客の前で、私が尊敬する尾崎紀世彦さんの「また逢う日まで」を歌わせていただきました。緊張から歌いきれるか不安でしたが、友達の応援もあり、ショーは盛況のうちに幕を閉じました。

感無量な思い出もありましたが、常に楽しいわけではありませんでした。ホームシックや孤独感に悩むことはなかったものの、時折「自分は何をしているのだろう」という喪失感に襲われることがありました。その原因が睡眠不足だと判明し、改めて睡眠の大切さを実感しました。

振り返ってみると、留学生活は私にとって感慨深い経験でした。学問だけでなく、人生におけるさまざまな教訓や配慮を学び、自分自身を見つめ直す良い機会となりました。留学が誰にでも良い経験となるわけではありませんが、さまざまな経験をするための一番簡潔な方法だと思いました。